

第6学年〇組 社会科学学習指導案

指導者

1 小单元名 「全国統一への動き」

2 小单元の構想

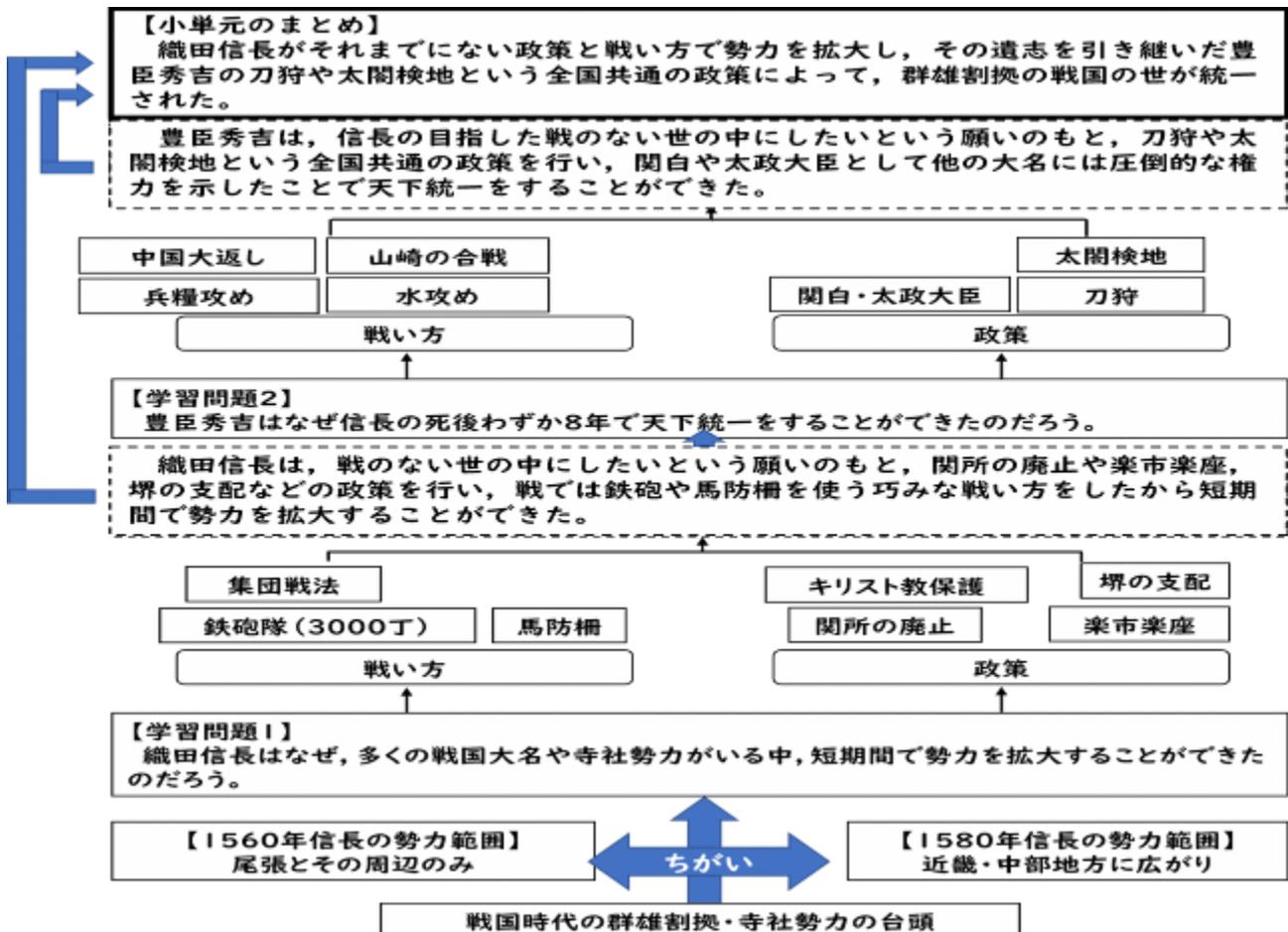
【こんな子どもたちを（実態）】

本学級の子どもたちは、これまでの歴史学習において、調べたことをもとに人物の願いを踏まえて行為の意味を考えたり、時代の特色を捉えたりしてきている。しかし、その実態は教師の説明を聞いて歴史的事実をつなげたり深めたりしていくだけで、自分で調べた事実をもとに解釈を行い、人物の行為の意味や願いを考え、まとめるというような主体的な学びには至っていない。

【こんな教材で（教材のよさ）】

本小单元では、織田信長、豊臣秀吉の天下統一を手掛かりに戦国の世が統一されたことを理解することがねらいである。そこで、本小单元では、1つの社会的事象として織田信長の業績を中心に取り上げる。織田信長は、当時最新式の武器（鉄砲）を多く使った戦い方をしたり、楽市・楽座や関所の廃止のような政策をしたりして短期間で勢力を広めていったという、これまでの戦国大名との違いを捉えることができる。また、他の社会的事象としては、豊臣秀吉を取り上げる。豊臣秀吉は織田信長の家臣であり、信長の死後わずか8年で全国統一をほぼ成し遂げたこと、刀狩りや全国統一基準での検地など、これまでの戦国大名との違いを捉えることができる。この2人の業績は、これまでの戦国時代の社会構造から江戸時代の社会構造につながる重要な役割を果たしているため、子どもたちも驚きをもちながら主体的に学習を進めることもできると考える。

【こんな追究活動で（単元構造図）】



【こんな子どもたちに（小単元目標）】

- 織田信長と豊臣秀吉の働きを比べたり結び付けたりして調べ、キリスト教や鉄砲の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、群雄割拠の状態から天下統一されたことを理解することができる。
(知識及び技能)
- 戦国大名が群雄割拠している状態から織田信長が短期間で勢力を拡大することができた理由や信長の死後、短期間で秀吉が天下統一を果たすことができた理由について考えさせ、戦い方や政策における人物の工夫に気づき、表現できるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- 群雄割拠の状態から天下統一していく織田信長や豊臣秀吉に関心を持ち、天下統一における二人の役割について問題意識を持ちながら主体的に考えることができる。(学びに向かう力、人間性等)

3 小単元計画（全6時間）

段階	主な学習活動（数字）と内容（○）	主な支援（※）	配時
見 つ け る	1 当時の社会状況や織田信長について知り、学習問題について話し合う。 (1) 織田信長に関わる当時の社会の様子について調べる。 ○戦国大名や寺社勢力が乱立していたこと ○織田信長は幼少期「うつけ者」と呼ばれていたこと (2) 織田信長が20年ほどで勢力を広げた事実を知り、学習問題を話し合う。	※ 大名の勢力図を提示し、力をもった戦国大名や寺社が全国各地を収めていたことを捉えさせる。 ※ 信長の「うつけ者」と呼ばれる所以のエピソードを紹介する。 ※ 1560年ごろと1582年ごろの勢力図を比較させ、信長の勢力が拡大していることを捉えさせる。	1
【学習問題1】 織田信長は、多くの戦国大名や寺社勢力がいる中で、なぜ20年ほどの短い期間で勢力を広げることができたのだろう。			
見 つ め る	2 織田信長が短期間で勢力を広げることができた理由について調べ、話し合う。 【追究の視点】①戦い方 ②政策 (1) 織田信長の戦い方や政策を調べる。 ○桶狭間の戦いにおける奇襲戦法 ○鉄砲隊・馬防柵などの集団戦法 ○関所の廃止、楽市・楽座、キリスト教の保護による寺社勢力の減退化 ○堺の支配、ポルトガルとの貿易による戦力の確保 (2) 調べたことをもとに織田信長が短期間で勢力を拡大することができたわけを話し合う。	※ 学習問題に対する予想を分類して、追究の視点を明確にする。 ※ 桶狭間の戦いのエピソードや長篠の戦いの資料を提示し、少数勢力の織田軍が勝利した理由を考えさせる。 ※ 関所の仕組みを説明し、それを廃止することの良さを考えさせる。 ※ 楽市・楽座の政策が安土の城下町の経済を豊かにすることを捉えさせる。 ※ 戦い方につながる鉄砲の生産地である堺を支配したことを捉えさせる。 ※ 戦い方・政策の2つから織田信長が短期間で勢力を拡大することができた理由を考えさせる。	3 ② ① 本 時
【学習問題1のまとめ】 織田信長は、戦のない世の中にしたいという願いのもと、関所の廃止や楽市楽座、堺の支配などの政策を行い、戦では鉄砲や馬防柵を使う巧みな戦い方をしたから短期間で勢力を拡大することができた。			

広 げ る	3 豊臣秀吉の天下統一の歩みを調べる。 (1) 豊臣秀吉の一生を年表で知り、学習問題について話し合う。	※ 信長の死後、秀吉がわずか8年で天下統一したことを気づかせるために年表を提示する。	2 ①
	【学習問題2】 豊臣秀吉はなぜ、信長の死後、わずか8年で天下統一をすることができたのだろう。		
	【追究の視点】 ①戦い方 ②政策 (2) 豊臣秀吉の戦い方・政策を調べ、短期間で天下統一できた理由を話し合う。 ○刀狩、検地などの百姓支配の政策を行ったこと ○大阪城・聚楽亭などの絢爛豪華な建物を建造し、他の大名を圧倒したこと ○関白や太政大臣の位についてしたこと	※ 刀狩令や検地を実施したことで百姓への支配力を強めたことを捉えさせる。 ※ 武士と百姓の身分の違いをはっきりさせるきまりを作ったことを捉えさせる。 ※ 戦い方・政策の2つから豊臣秀吉が短期間で天下を統一することができた理由を考えさせる。	①
	【学習問題2のまとめ】 豊臣秀吉は、信長の目指した戦のない世の中にしたいという願いのもと、刀狩や太閤検地という全国共通の政策を行い、関白や太政大臣として他の大名には圧倒的な権力を示したことで天下統一をすることができた。		
【小単元のまとめ】 織田信長がそれまでにない新しい政策と戦い方で勢力を拡大し、その遺志を引き継いだ豊臣秀吉の刀狩や太閤検地という全国共通の政策によって、群雄割拠の戦国の世が統一された。			

4 本時 4 / 6

5 本時のねらい

- 織田信長が短期間で勢力を拡大することができた理由を戦い方・政策の両面から考えたことを話し合い、まとめることができる。

6 本時の授業仮説

本時授業において次のような手立てを工夫すれば、子ども自らが織田信長の行為（戦い方・政策）の関係を捉え、織田信長が短期間で勢力を拡大することができた理由を説明することができるだろう。

○細目1：獲得した知識を構造化する活動

これまで調べた事実や資料をもとに、クラゲチャート（思考ツール）の中の「時代背景」「したこと」「願い（目的）」「結果」に分けて整理する活動を位置付けることで、複数の歴史的事象の相互関係が見えやすくなり、人物の願いを捉えたうえで説明ができるようになるだろう。

○細目2：信長の願いに迫らせる活動

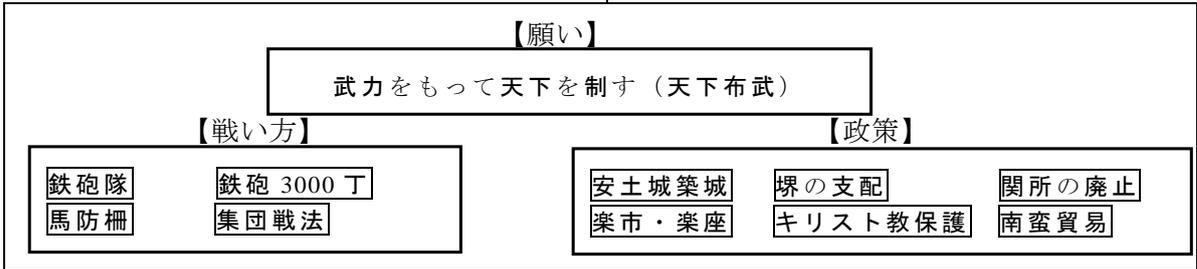
信長が使用した「天下布武」の印の意味を考えさせることで、信長の真の平和を願っていたことに迫ることができるだろう。

7 本時の展開

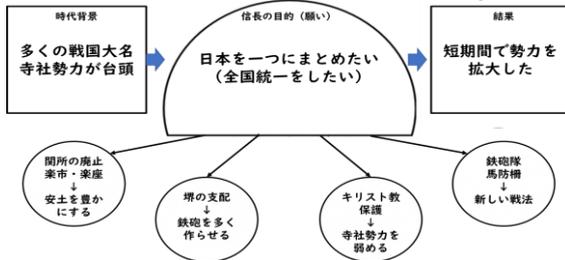
段階	学習活動（数字）と子どもの発言例	主な支援（※）
つ か む ／	1 前時学習を振り返り、本時のめあてを設定する。	※ 本時のめあてが設定できるように、学習資料を掲示しておく。
	めあて 織田信長は多くの戦国大名や寺社勢力がいる中で、なぜ20年ほどの短期間で勢力を広げることができたのか話し合おう。	

さ 2 織田信長が短期間で勢力を広げることがで
ぐ きた理由を話し合う。
る (1) 信長の戦い方, 政策を発表する。

※ この段階での願いは「天下統一をしたい」という程度のものにしておく。



(2) 信長が短期間で勢力拡大ができたわけを、クラゲチャートに整理してまとめる。



※ クラゲチャートのクラゲの足の数は、自分で決められるように、上半分の枠のみにした形にしておく。

(3) クラゲチャートをもとに考えを発表する。

- ・ 信長は鉄砲隊や馬防柵をした集団戦法をしたから、周りの大名たちに勝利したと思う。
- ・ 関所を廃止したり、楽市・楽座をしたりしたこと安土の城下町に行きたい商人が増え、安土が豊かになったから、勢力を拡大できたと思う。
- ・ いろいろな政策で安土が豊かになり、たくさんのお金を使って鉄砲を作り、それを戦いで使用したから短期間で勢力を拡大できたと思う。

※ 経済力がつけば、その分武器や兵力をそろえるなどの戦略も立てやすくなることに気づかせるために、鉄砲1丁の値段を再提示する。

(4) 織田信長がなぜ「天下布武」の印を使用したのかを考え、話し合う。

※ 「天下布武」の「武」の漢字の成り立ちを教え、「武」には「矛」を「止」めるという意味があることを知らせ、信長の真の願いを考えさせる。

○ 天下統一 → 戦のない世の中へ

3 本時学習を振り返り、学習をまとめる。

まとめ 織田信長は、戦のない世の中をしたいと願い、関所の廃止や楽市楽座などの政策で資金を集め、その資金を使って鉄砲を大量にそろえた新しい戦い方をしたから短期間で勢力を拡大することができた。

／
ふ
り
か
え
る